

Forest通信 令和3年 12

No.394

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

巻頭
Photo

高尾山のいきものたち

キタテハ (タテハチョウ科)



オレンジ色の鮮やかな蝶。翅の表は橙色に黒い斑点が多数あり、翅の縁にはいくつか裏は赤褐色で枯葉にまぎれる保護色になっている。尖った突起がある。草地や林縁、河原など日当りのいい場所に棲み、草の上などによくとまり、花や樹液に訪れる。幼虫の食草は、いろんな所に生えているカナムグラなど。

越冬した成虫が早春に現れ、その卵からの成虫が5月頃羽化し、その後、年に2~4回成虫の発生を繰り返す。秋に羽化した成虫が越冬する。秋の成虫は橙色の赤みが鮮やかで、冬を越して7ヶ月程生きるが、春や夏に羽化した成虫は赤味が弱く、1ヶ月程と命が短い。同じ種でも姿や寿命が異なるが、一年を通して複数の個体で命をつないでいる。

(森林インストラクター 藤原 裕二)

この季節に目を楽しませてくれる植物たち

- ヒイラギの花 (右上)
- イヌビワの冬芽 (左下)
- コクサギの実と種 (右下)





公募イベント つるかご編み



11月13日(土)に公募イベント「つるかご編み」が開催されました。これは当センターの公募イベントの中で最も人気の高いイベントです。造林事業において植生木の生育を妨げる「つる類」を駆除して採集したつるを用いて実施しています。今回は15名の参加となりました。

開会式では、参加の皆さんに「林業の厄介者」であるつるを駆除する目的で実施していることを毎回お伝えしています。

さて、お待ちかねの編み込みの開始です。まずは山のように積まれた鶴の中から、作りたいかごの形に見合った太さのつるを選び出します。

編み方については熟練した?当センター職員およびボランティアのフォレストサポートスタッフが個別に対応していきます。中には相当熟練した参加者もいて、逆に教をを請う場合もありました。午前中の作業時間は10時から12時までの2時間ですが、あっという間に時間は経過して昼食タイムに・・・しかし皆さん食事時間もそこそこに切り上げ作業を再開し、つるかご編みに寄せる情熱がうかがえました。

楽しい時間はあっという間に過ぎて、終了時間の14時。できあがった作品を棚に並べて皆さんで鑑賞しました。自然のつるを利用しているので、仕上がりは大小様々ですが、それが良い風合いの素敵な作品となりました。(磯)



参加いただいた皆さん



もくもくと編み込み



力作揃い



自分好みのつる選び



できあがった作品を皆さんで鑑賞

森林教室

板橋区立 中台小学校

快晴となった11月26日（金）、板橋区立中台小学校の5年生44名が森林教室に訪れました。

交通渋滞で1時間ほど遅れての到着でしたが、児童の皆さんは疲れた様子もなく開校式の後、さっそく森林観察に出発です。6班に分かれて6名の職員が動植物の特徴、人工林・天然林の違い、森林の働きなどについて解説しながら進みます。当センターの森林観察では、森林の中で色々なこと体感してもらうことを大切にしており、例えば、コクサギ、レモンエゴマ、クロモジの匂い、タゴガエル、ウグイス地鳴きの声、サワガニ、ヤブムラサキの葉の触った感じ、スギの葉を燃やしたときの匂い、アオキ、アブラチャンの葉っぱでの草笛、カントウミヤマカタバミでの十円玉磨き、ジャノヒゲの実でのスーパーボール遊び、ひっつき虫ごっこなどが定番となっています。

限られた観察時間の中での五感を使った盛りだくさんの体験ですが、観察から帰ってくると児童の皆さんはみな「とても楽しかった」「〇〇をもっとやりたかった」と満足の声を聞かせてくれました。

午後は、スライドを見ながらの森林学習と楽しみにしていた丸太切りを行い、閉校式では「今日は、

普段はあまり見たり聞いたりできない森林や林業、そこに暮らす動植物などについて勉強できて良かった」などの感想を聞くことができました。（枝）



いざ観察に出発！



サワガニ触ったよ！

森林教室

町田市立 小川小学校

11月5日（金）、町田市立小川小学校の5年生86名の森林教室を行いました。道中渋滞に巻き込まれ到着が1時間遅れとなったため、予定を変更して午前中に全員で森林観察に行くことになり、午後は児童を2班に分け森林学習と丸太切りを交互に行うこととなりました。

森林観察では、樹木や植物の説明を聞きながら、葉を触ったり匂いをかいだりしながら歩きました。途中の沢ではサワガニが登場。「こんな所にカニが居る！」という驚きの声やお昼前なのでおなかをすかせた児童が「おいしそう」とつぶやいているのが印象的でした。

森林学習では、国有林や森林官の仕事、高尾山の動物たち、木材の生産、森林における「SDGs」について説明しました。「SDGs」については最近よくテレビなどで出てくるので「単語は知っている」という児童が多くいました。予定より短い時間での講義になりましたが、森林の働きのいくつかが「SDGs」に関わっていると説明すると「なるほど」と納得出来たようです。先生からは「とてもわかりやすかった」とご感想をいただきました。

丸太切り体験では、腕が痛くなるほど鋸を挽いた児童や、様々な厚さの輪切りを手に満面の笑みをみせる児童もいました。切った輪切りはまだ乾燥して

いないので、ぺろんと皮がむけます。これが面白いらしく、丸太切り以上に熱中していた姿が印象的でした。（岩）



久しぶりの野外活動にわくわく



SDGsについても勉強！

森林教室

世田谷区立 松沢小学校

秋も深まった11月19日と20日、世田谷区立松沢小学校の5年生145名が森林教室に訪れました。生徒数が多いため、半分ずつ2日にわたっての実施です。

日影沢キャンプ場管理棟前の広場で児童進行による開会式を行った後、さっそく森林観察に出発。10人程度の班に分かれて、途中センター職員から植物の名前、特徴（この時期なので実や種、散布方式など）、人工林と天然林の特徴、役割などについて説明を聞いたり手に触れたりしながら探索。児童の皆さんも、普段は歩く機会の少ない森林の中で、目につくいろいろなものに興味を持って職員に質問したりしていました。小さな沢では、「緑のダム」の話聞いた後、その恩恵を受けている沢ガニなどの水生動物を探したり、森林の土壌から水が滴り落ちるところを確認したりしました。森林の重要な働きを直に感じてもらえたと思います。

野外での楽しい昼食の後は、管理棟での森林学習と丸太切り体験。良い香りのするヒノキ間伐材の輪切りを何枚も作り、家の方への良いお土産ができたと言った皆さん満足して帰路につきました。（枝）



滴り落ちる水を見て「緑のダム」を実感



一年中枯れない沢でカニや虫探し！

出前森林教室



昭島市立 中神保育園

11月12日（金）、昭島市の中神保育園から花炭の作成体験をしたいとの要望があり、保育園の庭を利用して出前森林教室を実施しました。

元気いっぱいの子供たち29名のあいさつではじまり、まずは職員による火起こしの実演です。多少風ありましたが「がんばれ、がんばれ」の声援を受け無事成功、児童から拍手の嵐！

次に、全員で花炭用の缶の中に松ぼっくりなどを入れてもらい、たき火の上にセット。できあがるまでの間、近畿中国森林管理局作成「雨水の冒険」（動画音声入り版）の鑑賞と枝や木の实などを使ったクラフト体験を行っていただきました。

最後にいよいよ花炭缶のフタを開けます。完成をドキドキしながら待っていた園児たちは、きれいに

できあがった花炭を見て「炭になった！」「まっ黒クロスケだ！」と大歓声。

園児とともに先生からも素敵な笑顔があふれた森林教室となりました。（高）



木の実のクラフト、じょうずにできたよ！

編集後記

森林教室等、センター主催イベントの実施にあたっては、フォレストサポートスタッフの皆さんにご協力いただいています。毎回お手伝いいただき感謝申し上げます。

ウバユリの実と種



Forest通信 NO.394

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>